

# 多文化共生講座



10月5日(木)広峰小学校で多文化共生講座を実施し、5年生が参加しました。講師は、財団職員です。

最初に、姫路市文化国際交流財団ってどこにあるの?という話をし、世界の国旗や国の数などの簡単な選択クイズをしました。多くの児童が、たくさんの国旗や国の数を知っていて、ものすごく驚きました。正解すると、他の児童に自慢している児童もいました。

「なぜ外国に住むのだろう」という質問に、「ウクライナみたいに戦争から逃げてきた人がいるから」「その国に好きな人がいるから」「家族の仕事でそこに住むことになったから」など、多くの考えが出てきました。他にも、姫路市にはどんな国籍の人がいて、どのくらいの人数がいるのかという話をしました。児童は、興味津々に聞いている様子でした。「姫路に住んでいる人を100人集めると、その中の2人から3人は外国の人なんだよ。」と説明すると、児童はとても驚いて一生懸命メモを取っていました。

次に、「多文化共生って何だろう」という話をしました。「もし自分の隣の家に外国人が引っ越して来たら自分はどうする?」という質問をすると、「仲良くしたい」「ちょっと話すのが無理かも」など、率直な意見が聞こえてきました。また、「あっていい違い あってはならない違い」の話をしました。肌の色や食文化の違いはあっていい違いですが、「外国から来た子どもは日本語が分からないからいつも0点」というのは、あってはならない違いです。児童は真剣に話を聞いていました。

姫路市に住んでいる外国人を対象としたアンケートで、約4割が「これからも姫路に住みたい」という回答を見せると、「ええー!?!」と驚いている児童や喜んでいる児童もいました。

今回の講座が、これからの姫路市を作っていく、児童のみなさんの心に残るような話になったらいいなと思います。

アメリカに住んでいたときに困っていた「言葉」と「勉強」について  
お話させてもらいました



(文章は、トライやる生が作成しました。)